

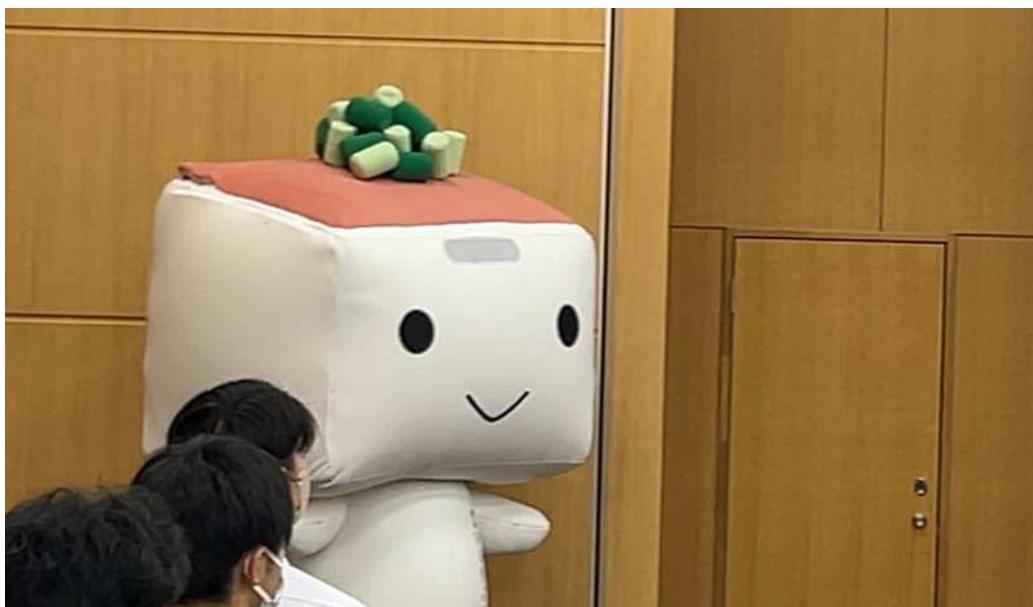
令和7年度秋のキャンパスビジット実施報告書

文責 実行委員長 医学科3年 酒井公平

1. はじめに

令和7年11月9日(日)、令和7年度秋のキャンパスビジットを盛大に開催いたしました。

本イベント「キャンパスビジット」は、長崎大学医学科への進学を考えている方、本学に興味を持っている高校生・予備校生を対象とした特別なイベントであり、毎年夏に開催される、大学によるオープンキャンパスとは一線を画しています。本イベントは、有志学生による実行委員会が中心となり企画・運営を行い、参加者に本学の魅力をダイレクトに伝えることを目的としています。今回のキャンパスビジットでは、前回までとは内容の構成を一部変更し、参加者にとってより有意義なひとときとなるよう尽力いたしました。



2. 当日の様子

一限目として、在校生講話を行いました。医学科生5名による座談会形式として、大学生活や入試に関する話を本音で伝えることができました。

二限目として、濱田航一郎先生(長崎大学病院総合診療科)をお迎えし、「診療と研究の二足のわらじ」という題目でお話いただきました。

三限目として、TBLを行いました。進行する大学生にとっても難しいテーマ

でしたが、参加してくださった高校生の皆さんと真剣にテーマと向き合い議論を交わしてくださいました。

その後、昼休憩は高校生と在学生で会話を楽しみながら昼食をとり、午後はシミュレーション機器を用いた実習を行いました。

3. 各プログラムについて

(1) 在校生講話・先生講話

在校生講話については、司会3年の関が務め、1年の近藤、2年の中村、3年の入江、山下、渡邊の5人が登壇する座談会形式で行いました。前回までのキャンパスビギットでは、学生講話は2名の大学生が行なっておりましたが今回は一度に多くの学生の話が聞けた方がいいと考え、出身都道府県や入試区分の違う5人に話してもらいました。プレゼン形式ではなく、対話形式として、より本音で大学生活や受験勉強・入試について参加者の皆さんにお伝えできたと思います。また、参加してくださった高校生のアンケート結果からも、学生同士の和気藹々とした雰囲気を感じることができたとの声を頂き、そういう面でも長崎大学の良さを伝えることができたと感じております。



先生のご講演は「診療と研究の二足のわらじ」という題目でお話いただきました。キャンパスビジットの実行委員に研究医枠で入学した学生がおらず、研究医枠でご入学された濱田先生の話は参加してくださった高校生にとっても、我々実行委員の大学生にとっても非常に興味深く、刺激的な内容でした。また、総合診療医にまつわる話も高校生にとっては身近なものではなかったようで、総合診療医について知ることができてよかったですという声がアンケートで多く寄せられました。



(2) TBL

今回のキャンパスビジットでは、実際の医学科の授業でも行われているTBLも体験してもらいました。医学知識のない高校生の皆さんだからこそ、疾患の検討ではなく医療倫理にまつわる問題について考えてもらいました。実際に生じた透析治療に関する事例という難しいテーマではありましたが、高校生の皆さんのが初対面の人同士とは思えないほど真剣で熱心に議論している姿が印象的でした。また、参加した高校生からも、「正解がない問い合わせだからこそ、時間をかけて丁寧に考えていこうと思いました。また、話し合いで様々な意見を聞くことができ、以前まで漠然としていた医学を自分事として考えることができるようになりました。とても有意義な時間でした。」という感想をいただき、実習とは違った形で医療について触れる経験を提供できてよかったです。

また、最後には濱田先生に医師として実臨床に即した解説も頂き、高校生、実行委員ともに貴重な勉強の機会となりました。



(3)実習

過去のキャンパスビジットでも実習は大人気のプログラムであったため、今回のキャンパスビジットでは前回よりも実習の時間を1時間程度長く確保しました。今回は、呼吸音・心音、心電図、腹腔鏡、胸骨圧迫、気管挿管、結紮、血圧測定を行いました。時間を延長したことに加え、今回は募集人数も40人としていたため、過去の実習よりも一人あたりの実習体験時間をしっかりと確保することができました。また、ただ体験してもらうだけでなく、その仕組みや実際にはどう使われているのかという説明も重視して行いました。参加してくださった高校生から、今回も実習についての感想が多く寄せられました。中々経験することのないものだと思うので、今後もより充実したものとなるよう努めていきたいです。



4. 最後に

今回のキャンパスビジットでは、学生講話の形式変更やTBLの導入、実習時間の延長など実行委員にとってもチャレンジでしたが、無事終了することができました。アンケートでも「有意義な時間だった」という声や「迷っていたけど長崎大学医学部を第一志望に頑張りたい」といった声を多くいただきました。これらは、いつも実習に協力してくださる長崎大学病院シミュレーションセンターの中山副部門長や講演していただいた濱田先生、キャンパスビジット顧問の泉川先生、そして総務部の藤岡さんや中尾さんをはじめとした多くの方々のご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。

私自身も高校生の時にキャンパスビジットに参加した経験があります。自分が参加したイベントがこのように受け継がれていき、実行委員長を務めることになるとは当時は想像もしておらず大変感慨深いです。今回参加してくれた高校生の中からも、長崎大学医学部医学科に合格し一緒にキャンパスビジットを作り上げてくれる仲間が一人でも多く出ることを祈っています。

皆様のお力添えがあり、無事第16回キャンパスビジットを盛会のうちに終えることが出来ました。次回以降もより良い会となるよう工夫・改善を重ねて参ります。引き続き何卒よろしくお願ひいたします。

